

クライモリ

2004(平成16)年9月6日鑑賞(東宝東和試写室)



監督＝ロブ・シュミット／出演＝エリザ・デュシュク／エマニュエル・シューキー／リンディ・ブース／デズモンド・ハリントン／ジェレミー・シスト／ケビン・ゼガーズ（東宝東和配給／2003年アメリカ映画／84分）

……私の嫌いなホラー映画だが、「若く美しいヒロインら6人の学生……」に魅かれて試写室へ。気持悪い「化け物」には辟易したが、「看板に偽りなし」と一応満足……。しかし、ホントにウェスト・ヴァージニア州にこんな森があるのかな……？

私の嫌いなホラー映画だが……？

私は、ホラー映画は大嫌い！ そう何回も書いてきた。しかし、この『クライモリ』は、事前の案内ハガキによると、「若く美しいヒロインら6人の学生は……」とあり、ハガキの写真にも若くてキレイなお嬢さんが……。

そして、私はそういう映画が大好き……？ その結果、「若く美しいヒロイン」のウエイトが大きくなって、観に行くことに……。そしてその結果は……？ まずまず満足というところか？

舞台はウェスト・ヴァージニア州

パンフレットによると、この映画の舞台となったのはウェスト・ヴァージニア州だが、この州は、その75%が森林に覆われ、どこまでも鬱蒼とした無人の樹海が続くとのこと。

その中で、地図にもうっすらとしか載っていない忘れられた山道で、5人グループの男女と、1人の医学生クリス（デズモンド・ハリントン）が衝撃的な出会いを……。というのは、つまり、5人の男女が道路に停めていた車に、クリスの

車が衝突したというわけだ。5人の男女が道の上に車を停めていたのは、道路上に有刺鉄線が敷かれていたため。これは誰かのタチの悪いいたずら……。誰もがそう思い、この苦境を乗り切るのは簡単なことだと思ったのだが……？

状況設定は字幕から

映画の冒頭、刺激的なシーンと字幕が次々と流れてくる。その結果、詳しくはわからないものの、何か人間離れた「化け物」みたいなモノが登場して、いろいろ事件を起こしているらしいことがわかる。

続いてスクリーンに現れるのは、ロック・クライミングをしている2人の男女。その2人は多くの観客の予想どおり、残忍な結果に……。続いて登場するのが、車を運転して面接会場に急いでいる医学生のクリス。このクリスが本線での車の渋滞に巻き込まれたため、地図にあった裏道に入っていったことが、前述の交通事故発生の発端だ。

5人の男女のキャラクター

森の中にキャンプに来ていたのは、まず3人の美人女子学生のジェシー（エリザ・デュシュク）とカーリー（エマニュエル・シューキー）とフランシーヌ（リンディ・ブース）。

そして、そこにカーリーの彼氏のスコット（ジェレミー・シスト）と、フランシーヌの彼氏のエヴァン（ケビン・ゼガーズ）を加えた5人。

後にわかることだが、この森の中へのキャンプは、ジェシーが彼氏にフラれて傷心状態にあったため、ジェシーの親友の2組のカップルが提案し、ジェシーを無理矢理誘ったもの。ところが、それが何とも大変な結果に……。

しかし、交通事故発生の時点では、5人のグループの男女は、みんな良家の子女らしく気楽なもの。

特に、フランシーヌとエヴァンのカップルは、現場に残って2人でマリファナその他(?)を楽しもうという気楽さ。他方、カーリーとスコットのカップルとジェシーそして交通事故の加害者であるクリスは、早く「外界」と連絡できるところに行くために現場を離れたが……。

次々と起こる不気味な出来事

まず発生したのは、現場に残ったフランシーヌとエヴァンを襲った悲劇。しかしこの時点では、なぜそんな状況になったのかは観客にはよくわからない。すると、続いてカーリーとスコットとの間にも同じような状況が……。もともと、これはカーリーのちょっとしたいたずらによるもので、実は大丈夫だった。

しかし、カーリーとスコット、そしてクリスとジェシーの4人が歩いているうちに見つけた小屋の中で発見した数々のものは……。それは想像を絶する異様なもの。そしてさらに、そこに戻ってきた「化け物」たちは……？

ここから、この映画のホンモノのホラーぶりが発揮されるが、果たしてその実態は……？

ホントにこんな森林があるの？

この映画のホラーぶりは、映画を観てタツプリと楽しんで（？）もらいたい。美女と恐怖というのはベストの取り合わせで、ホラー映画がヒットするための1つの要因。

この映画のヒロイン役ジェシーがギリギリの状態まで追いつめられ、「もはやこれまで！」という場面で見せる恐怖はなかなかのもの。そして、意外にたくましい（？）医学生クリスの「化け物」からの逃避行における活躍ぶりや「化け物」との「決闘」ぶりもお見事という他ない。

他方、情けないのは地元の警察。これは一体何だ！ 映画だから許されるというものの、今時こんな軟弱な警察のもとでホントにこんな「無法地帯」の森林が存在すればエライこと……。

2004(平成16)年9月6日記